

6 学力向上アクションプラン

横浜市立相沢小学校 平成27年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

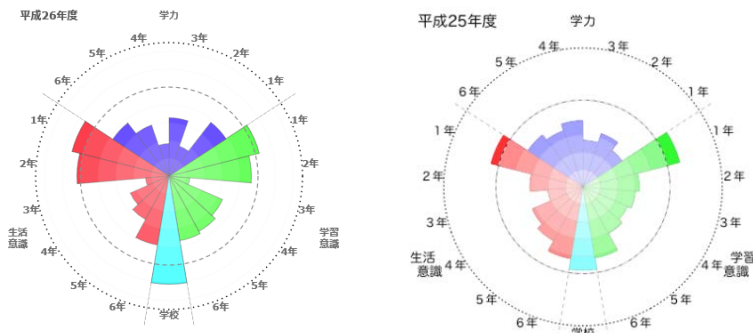
- (1) 授業研究を中心とした教員の研修、研究は定着している。子どもの実態と変容を適切に見とり、それを生かす授業実践が課題である。
- (2) 経験の浅い教員が多く、基礎的な指導技術、子どもの姿を見とる力を一層身に付ける必要がある。
- (3) 特別な教育的支援が必要な子どもが多く、特別支援教育を核にした学習支援に力を入れていく必要がある。
- (4) 就学援助等を受けている家庭が5割を超える。家庭での学習環境が整わない家庭が多い。

2 今後3年間の方針(中期学校経営方針)

- スキルタイムの充実で、国語の漢字書き取りや算数の計算ドリルの反復練習等で各教科の学習の基礎・基本を身につけ、市学力学習状況調査の標準化得点が2ポイント上昇しています。
- 特別支援教育コーディネーターを中心に、日々の児童観察をきちんと行い一人一人に応じた支援教育をしています。
- 具体的な体験活動を通して、自ら考え、表現する力を伸ばし、一人ひとりが、生き生きと学んでいます。

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成27年度の実態把握

(1) 学力の概要と要因



全体的に横浜市の平均を大きく下回っている。低学年での学習意識・生活意識は向上している。少数指導やTTなど、学習支援方法の工夫を今後も図っていく必要がある。

(2) 教科学習の状況

- 国語科: 全学年ともに言語・読むことのポイントが特に低い。
- 算数科: 一般的に低く、学力層 D の児童への学習支援が課題である。
- 社会科: 思考・判断のポイントが低い。
- 理科: 学習意欲は他教科に比べ高いが、思考・表現に課題がみられる。

(3) 経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)

学校全体として市の平均に達する項目が少なく、学力・学習意識・生活意識共に課題を抱えているが、低学年では上昇している。3年間取り組んだ理科の重点研では、体験活動を取り入れたことで、意欲的に学習に取り組む姿も見られた。家庭での学習環境が整わないこともあるが、経験が乏しく、基礎的な学力の不足が学習意欲に影響している地域性を考えると、身近な自然や生活につながる体験を継続的に積ませることで、学習意欲の向上につながるのではないと思われる。

同時に、漢字の書き取りや計算の反復練習による学習の基礎・基本を身につけることで、できる楽しさを実感させ、学習意欲の向上につなげていくことも重要である。本年度は算数科の重点研究・特別支援教育等の研修を通して、学習意欲の向上からねばり強く取り組む大切さを実感させ、自己有用感を育てていくことを授業改善の視点にしていきたい。

平成27年度

具体的施策と目標

平成27年度 目標

わかる喜び・ともに解決する楽しさを実感する授業の実現

(1) 学校組織としての共通の取組

○「分かった」と実感し、考えることが楽しくなるような授業の工夫と、基礎学力を定着させるための手立てを探る。(算数科を中心として)

- ・個に応じた指導の工夫。
- ・個どの考える力を高めるための表現方法の探求。

○特別支援教育の充実

- ・ユニバーサルデザインを取り入れた授業を実践する
- ・一人ひとりに応じた支援教育をすすめるための研修を年2回行う。

(2) 学年・教科としての取組(算数科を中心として) ○体験活動の充実

1 学年

具体物を用いた活動などを通して、学ぶことを楽しもうとするこの育成を目指す
(昨年度生活科)・季節によって生活が変わることに気づき、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりするために、身近な自然に親しみ、発見したことを表現する活動を位置づける。・身近な人々とかかわることの楽しさや、積極的にかかわろうとする気持ちを育てるために、分たちの生活や出来事を、身近な人と伝えあう活動を位置づける。

2 学年

具体物を用いた活動などを通して、学ぶことを楽しもうとするこの育成を目指す (昨年度生活科)・自然を観察して興味関心を高める。年間を通して、栽培や飼育活動を継続し、観察したことや気付いたことを自由に楽しんで表現できる場や方法を取り入れる。・地域の人との交流を大切にして、人とのふれあいから学んだり、感じたりし得る活動を大切にする。

3 学年

具体的な操作活動を通して、楽しんで問題解決しようとする子の育成を目指す
(昨年度理科)・社会科、理科で「まち」を見つめなおし、よさを自分たちで発見し伝え合う活動を位置づける。・生き物を育てる活動を多く取り入れ、命の大切さや素ばらしさを実感することができるようにするとともに、比べたり関連付けたりしながら考えたことを、説明したり話し合ったりする場を大切にする。

4 学年

具体的な操作活動を通して、楽しんで問題解決しようとする子の育成を目指す
(昨年度理科)・単元の導入や終末、まとめに体験活動を取り入れて、関心を高めたり学んだことを生かして取り組んでみようとする意欲を高める。・記録や報告をする表現活動を取り入れ、比べたり関連付けたりしながら考えたことを、説明したり話し合ったりする場を大切にする。

5 学年

既習事項を生かして、自ら考えようとする子の育成を目指す。
(昨年度理科)・外部からの専門知識を活用し、子どもたちの活動意欲を高める。理科や社会での体験活動の充実を図る。・自分ごととして考えられるような疑問が生まれる体験活動を取り入れながら、学習したことと身近な生活を結びつけて考えることができる学習展開を図る。

6 学年

既習事項を生かして、自ら考えようとする子の育成を目指す。
(昨年度理科)・理科の観察や実験等の体験活動で、一人ひとりが既習事項を生かしながら学習することができるようにする。・一人ひとりが予想を述べたり、友達の考えを聞いて考えなおしたりする話合いの場を充実させる。・体験活動から気付いたことや感じたことを振り返り、次に生かす。他者評価を取り入れる。

個別

- ・個別の指導計画に基づき、発達段階に応じたコミュニケーション手段を活用する場を設ける。
- ・各学年の取組から、必要な体験活動に取り組む。
- ・栽培活動を通して成長過程を知り、収穫の喜びを味わえるようにする。